

第85号
肥田町
まちおこし
推進協議会

肥田の福祉について

自治会福祉部長 瀧 幸子

近年の生活環境の変化にともない少子高齢化が問題となっています。今後私たちは経験したことがない人口減少社会、高齢社会を迎えようとしています。私たち住民は、肥田町が抱える諸課題と向き合い、高齢者と人口減少、暮らしの課題等の変化を常に意識し、住みよい肥田町を考えていく必要があると思います。

肥田町では、高齢化率が平成二十九年七月現在で三十一・一％、平成二十八年七月では、二十八・八％と高齢化率が高くなってきているのは事実です。稲枝地区でも高齢化率の高い町では、四十八％という数字が出ています。二人に一人が高齢者ということになります。今後さらに高齢化は進んでいくことは明らかとなつていきます。また、困ったときに頼れる人がいない高齢者の割合も、男性の一人暮らしの世帯が高いという結果が内閣府の意識調査（全国六十歳以上の男女）により出ています。

肥田町として高齢化社会に向けて自治会として何ができるか、福祉担当部長として何ができるか、正直何一つできていないことに不甲斐なさを感じています。しかし、自治会に対応が求められている状況です。先ずは高齢者を知ること、地域の特異性の把握、課題への対応ではないでしょうか。

また、町民皆様が心身ともに健康で心豊かに肥田町で暮らしていけるよう『健康づくり』として、からだの健康づくり（筋トレ）・脳の健康づくり（脳トレ等）・生活の健康づくり（健康に関するミニ知識）の活動も必要ではと感じています。高齢者は、体力、精神力の低下により自宅にこもりがちな傾向があります。町内には、



福寿会、女性会、子供会、自警団、ボランティアグループ、ファーム肥田という団体があります。各団体と連携、協力する体制をとり、家の外に出るための魅力を作り出す、高齢者に今までの人生観、経験を活かしてもらい、地域の中、若年齢層と積極的に交流することも必要ではと考えます。

まちぐるみがつながり合うことが大事で、ふだんから顔と目を合わせコミュニケーションを深め、相手を気遣う一言がお互いの心の距離を近づけてくれるのではないかと思います。また、隣組、隣近所の見守りや声かけがつながり合うことの第一歩ではないかと感じます。助けてもらわなくてもいい、迷惑（心配）をかけたくないとの思いもあるかもしれませんが、誰にも迷惑かけずに生きていくことはできないのですから……。

世代間、ご近所との相互信頼関係を樹立し、住民一人ひとりが安心して楽しく生活できるようにしていきたいものです。災害に直面したとき、その相互信頼関係が助け合いとなると考えます。

肥田の環境保全について

自治会環境部長 元持 光正

環境部長を受け、初めての宇曾川堤防の除草作業。早朝から町民の皆さんによる草刈りを行っていただくと、彼方此方からポイ捨てのゴミ。道路上ばかりでなく、草の中からも出るは出るわ。ガスレンジ、傘など考えられない不法投棄も含め、回収したゴミは軽トラック一台分。この堤防の草刈りは自治会が県から補助を受けて実施しているのですが、河川敷から堤防法面の内・外まで、かなり広範囲となっています。事前にファーム肥田さんによる機械除草で作業負担は大きく軽減するようになっていますが、高齢化しているこの時代、まだまだ一人ひとりの負担は大きく、その大きな協力によってようやく成り立っているものと思います。

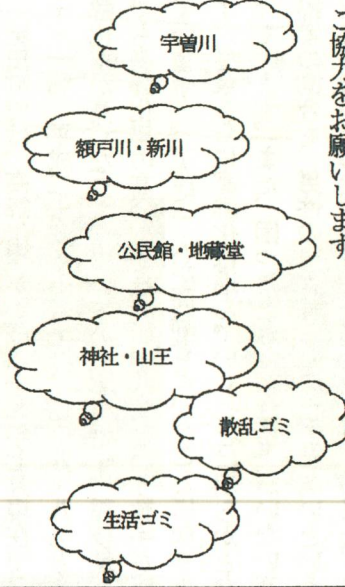
自治会の環境保全活動は、この宇曾川の堤防草刈にとどまりません。これ以外にも、日常的な生活ゴミ対応を始め、総延長二キロ近くの河川の泥上げや防犯灯の維持管理など多彩であり、働き盛りの世代人口が減っていく中、町民の総出ばかりに頼ることのない取り組みが求められています。

幸い肥田町では、ファーム肥田さんのほか、まちづくり委員会や福寿会でも散乱ゴミの回収やポイントポイントの清掃を行い、環境ボランティア組織では小規模な動員型活動に日時等を定めず協力いただくこととなっています。

町内の環境保全活動は、このような自治会内の諸団体の善意と協力によって成り立っていますが、諸団体の外にいる者は兎角すると他人事の眼差しになってしまう状況も見受けられます。

自治会活動の基本は奉仕の心を拠り所とするもので、

環境保全活動はもとより、防災や防犯、交通安全、福祉など全般について、人と人との繋がりを大切にしたい思いややさしさが必要だと思います。一人ひとりが感謝の心を持ちながら、それぞれの可能な範囲で積極的に取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか。引き続き、町民の皆さんのご支援とご協力をお願いします。



福寿会改革に向けて

まちづくり委員会委員長
福寿会会長

薩摩 四郎

本年四月の彦根市の高齢化率は二十四・六%ですが、我が肥田町は既に三十一・六%で、ほぼ三人に一人が高齢者となっています。

当稲枝地区や肥田町の現状を考えますと、今後の高齢化の進展はさらに著しいものが予想され、中でも、単身高齢者世帯や高齢者世帯の増加は大きな社会的、福祉的課題として地域の役割が求められています。

対して、高齢化の諸問題を自主的に受け止めるべき福寿会の現状はどうでしょう。会員数はここ数年減少が続く、現在では新たな入

会者もなく退会者が増加しています。私達の超高齢化社会への準備は万全なのでしょうか。福寿会が現状に至った原因の分析と対策を共に考えなければなりません。

原因の一つひとつは、加入年齢の問題を始め、運営の魅力や役員選出、会費負担のあり方、寄付金の問題など多岐にわたるものと考えられますが、それぞれが微妙に関わり合い、高齢者全員加入に向けた抜本的な出直しが必要となっています。

その際、まず考えておかなければならないことは、福寿会の会員構成が現役で活躍する方から元氣老人と言われる方、病弱な方、介護を受ける方、寝たきりの方など多彩であり、社会的にも人間関係の希薄化や個性化が強まっている現実だと思います。

こうした現実を率直に受け入れ、高齢者全員の組織という枠組みの中で、誰もがニーズに応じて活動し、一人ひとりの思いを大切にす、そして、健康寿命を延ばしながら老いては孤独を排除し、仲間づくりや助け合い、支え合いの地域社会づくり、地域活動の実践に取り組んでいかなければならないものと思います。

これまで長年様々な活動を実践してきた福寿会の衰退は、地域の活力の減退にもつながっていくという認識のもと、活力ある肥田町を次世代へ確実に継承していくため、再度の活性化が今こそ重要であり、多くの皆様のご理解とご支援・ご協力を願ってやみません。



こうした思いから、福寿会を高齢者全員からなる組織とする方向での改革方針を先の春季自治会総会でご説明申し上げましたが、福寿会総会での協議においては、残念ながら、改革への賛同者は十六名と、現状を維持する方の十三名は超えましたものの、意思表示のない方が多く、全体としては過半数を超えることができませんでした。機会があれば、改めて再審議を行うなど未来への橋渡しが着実に進めるよう、変わらぬご支援・協力をお願い申し上げます。

優勝おめでとう

過日開催の地区ソフトボール大会(体育振興会・連合自治会主催)において、肥田町選抜チームがDゾーンで優勝しました。選手皆さん、お疲れ様でした。今後も活躍を期待しています。



末永くよろしくお願ひします

十八組に小川英彦さんご一家が転入されました

安らかにお眠りください

鵜野清子さん 享年八十三歳

(平成三十年五月十一日逝去)

薩摩高子さん 享年九十九歳

(平成三十年六月十六日逝去)

お悔やみ

天雅彦神社春季大祭と遷座祭

氏子総代 藤野真理

四月八日、天候にも恵まれて、天雅彦神社の春季大祭と遷座祭が行われました。

遷座祭は、十年前に氏子の皆様の「奉賛を得て計画された平成の大改修が昨年着工され、ほぼ完成しましたことから、大祭に合わせ挙行されたものです。

昨年六月十一日夜には、工事期間中のご神体を仮本殿へ移す遷座式が催され、凛とした神秘的な空間の中、人生始めての貴重な体験をさせていただきました。

今回の祭礼は、ご神体を本殿にご帰還いただく過程に、大祭の渡行を挟み込む形で行われました。

まず、ご神体を仮本殿からお

神輿へ神移しをして当番字杉区への渡行が行われ、帰還後は改修されたご本殿前にご神体を安置後、神降ろしの儀、神移しの儀、記帳者氏子名簿の奉納と円滑に遷座祭に移行し、厳肅に儀式を終えることができました。来賓の伊藤定勉豊郷町長の祝辞の後



責任役員の薩摩正平氏が

遷座元丁の報告を行い、全員による手締めをもつて厳肅な儀式を終えることができました。

氏子の皆様とともに

本殿修復と祭礼の無事な

る催行をお祝申し上げますとともに関係の皆様へ厚くお礼申し上げます。末永く天雅彦神社、金刀比羅神社の繁栄・存続と、皆様方のご健康・ご多幸をご祈念申し上げます。



ふるさと歴史探訪記 1

高瀬 俊英

歩くと肥田の歴史がわかる

平成七年、肥田町史が刊行されました。これを契機に「まちづくり委員会」が組織され、歩くと肥田の歴史がわかるようにと高札風の木札に墨書のポイント表示が行われました。肥田の歴史を学ぼうと訪問者も増えてきましたことから、その後、説明文を書いたプレートをつける改良も行われました。

しかし、二十年近い歳月が経過しますと、



風雨により木材は朽ち、墨書も薄くなつて非常に残念な状態になってしまいました。このため、耐久性のあるプラスチックとスチールの立て看板に一新することとなりました。

立て看板の位置はどこが適当か

- ① 城下町肥田、② 宇曾川船着場、③ 万葉歌碑
 - ④ 道場屋敷(旧小字名)、⑤ 水攻め堤
 - ⑥ 肥田西遺跡、⑦ 「塚を乞手」周溝遺跡、⑧ 肥田城址
 - ⑨ 山王(旧小字名)、⑩ 同上、⑪ 愛親塾学校跡
 - ⑫ 肥田を取りまく土塁、⑬ 土塁と馬道
 - ⑭ 「北墓立」遺跡、⑮ 歴史資料館
- 新たに設置したい場所等があればご提案ください。

土塁の説明文を訂正します

肥田を取りまく約八百mの土塁の起源を次のように訂正します。

「戦国期、城や城下町を守る土塁といわれてきたが、その後の調査で、江戸期洪水対策として築かれたようである。(百々町は石積みによる家の地上げがなされている。)」

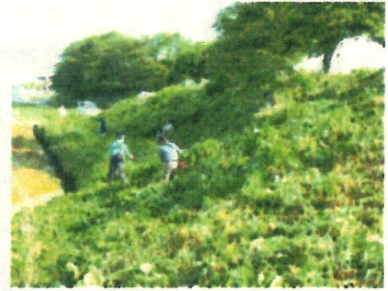
土塁の処々には牛馬が進めるように馬道(めどう)が設けられています。水害を防ぐ土塁ということから、その部分に頑丈な板で堰をつくるよう工夫されています。

大家勝治氏宅前や大村吉継氏宅南側の里道などに名残が見られます。肥田町では、堰のことを「メンド」とも呼んでいます。



写真で見る共同活動

環境保全活動 (美しい肥田を守る取り組み)



コミュニティ活動 (心かよう肥田を継承する取り組み)



農用地の保全活動 (緑あふれる肥田の農業を守る取り組み)



編集後記

梅雨空も明け近く、暑い夏の日差しが強くなってきました。

「広報ひだ」も、長年ご苦労いただいた藤野泰弘氏と後任にあたっていただいた成宮為夫氏が共に引退を希望され、新しく編集を担当させていただくこととなりました。

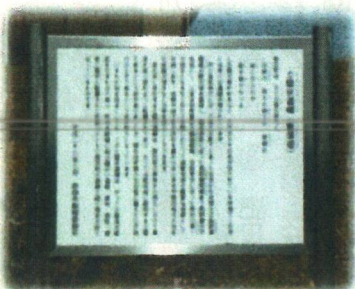
経験も才覚もなく途方に暮れていましたが、皆さんのご協力により、編集交代後の第一号を発行することができました。ご批判、ご意見をいただければと思います。

「あんなことがあった、こんなことがあった」、「あんなことができたらいいな、こんなことができたらいいな」など、みんなで作る広報を目指したいと思えます。たくさんの方の寄稿をお待ちしています。

今号から高瀬俊英氏の協力を得て肥田の歴史探訪を連続的に掲載することとしました。歴史を振り返る中で、郷土への愛着を深めるなど、より良き未来が創造できたいと思えます。

記事「土塁説明文の変更の報告がありました。彦根市文化財課によると、「室町戦国期の城下町を守るために築造された」とする新たな史料が発見されず、現時点では、「江戸期における洪水対策のため」とする説を覆すことができないということでした。このため、市の文化財指定は見送られました。

その一方、土塁や城下町の名残を示す町なみは歴史の価値があるとして、啓発看板の設置が行われました。機会を見つけ、ご覧いただければと思います。



* 広報担当連絡先

☎ 0431-6576

森田喜久雄